

投資事業評価調書(新規)

課室名	街路課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	街路課長 足立 真清 (丸岡 剛)	内線	4 4 7 4 (4 4 8 0)
-----	-----	---------------------	----------------------	----	------------------------

事業種目	街路事業	事業名	事業区間	総事業費	約 2 0 億円 (うち用地補償 費 1 7 億円)
		都市計画道路 加古川別府港線(木村工区) (県道加古川高砂線)	加古川市加古川町 粟津～木村		
所在地				着工予定年度	完成予定年度
加古川市加古川町粟津～加古川町木村				H 1 6 年度	H 2 2 年度
事業目的			事業内容		
JR 加古川駅付近の交通渋滞の解消 ・国道 2 5 0 号と国道 2 号バイパスの間を全線 4 車線化し、渋滞交差点解消プログラムに位置づけられている大川町交差点を含む、駅周辺の南北交通の抜本的な渋滞解消を図る。 緊急輸送道路の早期整備 ・連続立体交差事業と連携し、県立加古川病院やJR 加古川駅及び中心市街地へのアクセス機能の向上を図る。 歩行者等の安全確保 ・歩道の整備により、現県道における歩行者等の安全性の向上を図る。			道路改築 L = 2 5 9 m ・現道の拡幅 ・右折レーンの設置 ・自転車歩行者道の設置 現況：2車線W=6.5(7.5) 計画：4車線+3.5m両側歩道 W=13.0(22.0) 交通量(台/日) 現況：13,200(H11センサス) 計画：18,000(H22年予測) 混雑度：1.1(H11センサス) 歩行者：268人/12時間(H11センサス) 自転車：435台/12時間(H11センサス)		
評価視点					
(1)必要性 安全・安心		・現道は通学路であるが、歩道が未整備であるため、人身事故が多発するなど非常に危険であるため、歩道の整備により安全性の向上を図る必要がある。(平成14年における事業予定区間の人身事故件数：9件) ・緊急輸送道路ネットワーク計画に緊急輸送道路として位置づけられており、県立加古川病院等へのアクセス道路として、早期に整備する必要がある。 ・一部区間が福祉のまちづくり重点地区内にあることから、歩道の段差解消等、高齢者・障害者等に配慮した整備が必要である。			
地域の活性化		国道 2 5 0 号と国道 2 号バイパスを連絡し、南北の幹線道路機能を強化することにより、地域の活性化を図る。			
快適性・ゆとり		歩道のセミフラット化により段差を解消するとともに、視覚障害者誘導ブロックを設置することにより、高齢者・身障者に配慮した整備を行う。			
その他		加古川市が、街路整備プログラムの改訂にあたって実施した、市民アンケート調査の結果、加古川駅周辺南北道路の整備を求める意見が多い。			
(2)有効性・効率性		・費用便益費 B / C = 4 . 0 ・今回事業予定区間の前後区間で既に 4 車線化工事を進めていることから、バイパス等の代替案はない。 ・当該区間の整備により、路線全体の事業効果を早期に発現させることができる。			
(3)環境適合性		周辺は、密集した市街地であり、高木植樹や、歩道部はインターロック舗装、車道部は排水性舗装を実施することにより沿道環境の保全に努める。			
(4)優先性		・渋滞交差点解消プログラムに位置づけられている大川町交差点を含む本路線の抜本的な渋滞解消を図るため、当該工区の 4 車線化が必要不可欠であるため、早期に事業着手する必要がある。 ・当該区間では、人身事故が多発するなど非常に危険であるため、早急に整備する必要がある。 (平成14年における事業予定区間の人身事故件数：9件)			